

2022年度 下期

2024年 4月 1日

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	こども・スポーツネットワーク	
代表者名	橘 聖五	
連絡先 TEL : 080-6669-7326 FAX :	E-mail sendairokyu33@yahoo.co.jp	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	他年代の様々な方々が障害のある無しに関わらず、共にスポーツと食のイベントで地域活性と交流の構築
事業の目的	地域の子供たちが、安心安全な毎日を送るために、その地域の居住する多年代の方々との交流の場を構築する。 また、障害を持つ子どもや外出する機会が減少している高齢者はその地域でのネットワークづくりに苦慮している。 そのため、体を動かすことや食を通じて、その交流の場を地域に根付かせ、ネットワークとしての機能を持たせる。 スポーツ活動の定期化と各世代の交流を通し、学校の部活動とは一線を画した体力づくりと、トップチームを目指す子供たちの支援を行う。 また、自身がトップチームで活動していた若者を、地域の指導者、リーダーとして育成。 地域の子供たちを、全国レベルの技術が身近に感じられる環境を構築する。 地域の皆さんで、スポーツを通し一生懸命活動する生徒・学生を応援できるフローを考える。 食を通じた交流と生活の困窮する家庭の子供たちを支援する。

事業の具体的内容	長命ヶ丘小学校体育館会場（スポーツと子ども食堂） 7月・・・1，8，15，22，29日 8月…5，12，19，26日 9月」2．9．16．23．30日 10月…7．14．21日 11月4.11．18日12月2.9日 ジジババ食堂（子供たちとコラボ）12月26日国見町高齢者施設ナーシング 障害児との共生（スペシャルオリンピックスとコラボ） 10月1．15.22.29日大和町吉田小体育館 1、仙台市泉区長命ヶ丘周辺で毎週定期的なスポーツ活動を行い、参加無料で小さい子供たちから部活動等に参加していない・不登校・親子で体を動かしたい・高齢者の体力づくりの活動 2、スポーツ活動を多年代で実施し、その後に会食などの機会を作る。 2、子ども食堂を実施し、生活に困窮する家族や子供たちに栄養のある食事を提供する。 3、長命ヶ丘地域の高校や大学との連携にて、学習支援やスポーツ活動の指導や認知活動を展開。 4、地域の若者をスポーツを通し、リーダーとしての育成を、毎週の定期スポーツ教室で子供たちを指導することで行っていく。 5、日本代表や県の選抜選手を講師として招聘。 日本や県のトッププレイヤーを目の前で見る、学ぶことで意識改革と技術向上をしていく。 6、地域にある高齢者施設と連携し、子ども食堂だけではなく高齢者向けのジジババ食堂として両子ども食堂を合わせた内容をイベントとして楽しく開設。 7、障害者との交流をスペシャルオリンピックス宮城とコラボして、共生の意味を知り、また共生を目指して子供たちを中心に活動の場をつくる。
活動の開始から完了までの流れ	1、長命ヶ丘小学校体育館を毎週土曜日2時間借り上げ、バスケットボール・バランス・体感を中心に活動。幼稚園生5名、長命ヶ丘小学校・広瀬小学校等25名、長命ヶ丘等中学校6名、高校以上10名が参加。 2、活動参加者が終了後に会食または配食を体育館ロビーや近隣参加者宅・NPO事務所内で実施。参加者でネットワーク構築。 3、4、泉館山高・東北福祉大の生徒学生が参加。指導者を目指しリーダー候補として子供たちとともに活動。 5、バスケットボール日本代表今野紀花選手や県選抜選

	手を指導補助で招聘。子供たちが刺激を受けました。 6, 国見にある高齢者施設ナーシング内で12月26日ジジババ食堂実施。 またクリスマスや年始に子ども食堂とのコラボ活動実施。 高齢者と子供たちの交流で笑顔が溢れました。 7, 先天性の障害を持つ方々で活動するスペシャルオリンピックス宮城バスケットボールに指導者として参加。 地域の子供たちも共生の勉強になりました。
活動の成果と教訓	地域の中で、今まで知らなかった、また顔を知ってるが交流はなかった家族や子供たちが、食とスポーツを通し親睦を深め、なた地域内でのネットワークが構築され始めたことによる効果が、学校や地域の安心感として成果となりました。 特に、子どもたちと高齢者、そして障害のある無しにかかわらず、一緒に食を取る、スポーツをすることで「なんだ、普通でいいんじゃないか」という感覚が生まれてきました。 スポーツ中も、急に床に寝転んだり、泣き始めた障害のある子を、健常な子たちが手をつないで走りだすのを見てとても感動しました。 しかし、やはり障害の強度によりなじめない子がいたり、子ども同士で馬鹿にするようなことが見受けられたこともあり、共生を実現するためには、まだまだ時間と手立てが必要ということを痛感させられました。 子ども食堂では、本当に貧困の差が影響する子供たちを目の当たりにさせられ、驚愕したことは忘れられません。 個人的な配食を数件継続実施しております。 連れ子で新しい父が食事をまともに与えない、土日はギャンブルに親が行き子供たちは期限切れの食パンをなにも付けずに食べるなど、普通に話してくる子供たちはとにかくどう継続支援するか、また公的支援をうけさせるか、この引継ぎは社会福祉協議会などを通して曜検討事項です。
今後の展望など	毎週のスポーツ活動を通じた地域のネットワーク構築を継続し、また支援を要する困窮家庭の対応を検討して、地域でとり残されることの無いよう、構築していくネットワークに個人情報保護を念頭として取り込んでまいります。 また、高齢者との接点をどう地域内で場所を構築するかなど、地域内の団体や地区社会福祉協議会等とのコミュ

	ニケーションを図ります。 スポーツ活動の共生は、パラリンピックなどを通し認知度が上がるので、機会損失とならないよう交流を通した活動にしていきたいと考えます。 地域内にあるみやぎ生協様との協力もぜひ実現したいと存じます。 宜しくお願い致します。
--	---

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	300,000	
団体負担金	18,500	
合計	318,500	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
備品	バスケットボール 20 個	160,000	154,000
備品	ビブス 30枚 カラーたすき20本	105,000	104,500
講師謝礼	バスケットボール教室 5,000×3人×3回	45,000	45,000
	バランス塾 5,000×1人×3回	15,000	15,000

合計			318,500

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

1 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

2 領収書のコピー（郵送）

3 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）

*写真は郵送とメールで送ってください。